

平成29年度入学試験問題（後期日程）

小論文

観光産業科学部 観光科学科

注意事項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないように注意すること。
4. 解答時間は、90分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

問 題

図1は、最近の観光が沖縄県にもたらした経済波及効果を抜粋しまとめたものです。「平成22年度観光統計実態調査報告書」(沖縄県)の用法に基づけば「経済波及効果(総合効果)」とは、その経済波及効果の総額(大きさ)を指します。「誘発倍率」とはたとえば、観光客が県内消費1万円を行った場合に「経済波及効果(総合効果)」が1万5000円になれば「1.5」となる指標です。よって、「誘発倍率」は観光が地域にもたらす「経済波及効果(総合効果)」の波及効率を指す指標です。以上の説明を踏まえ、以下の問いに答えなさい。

問1 図1が示唆する内容を踏まえて、地域経済振興の観点から見た沖縄観光の動向について述べなさい(300字以上、350字以内)。

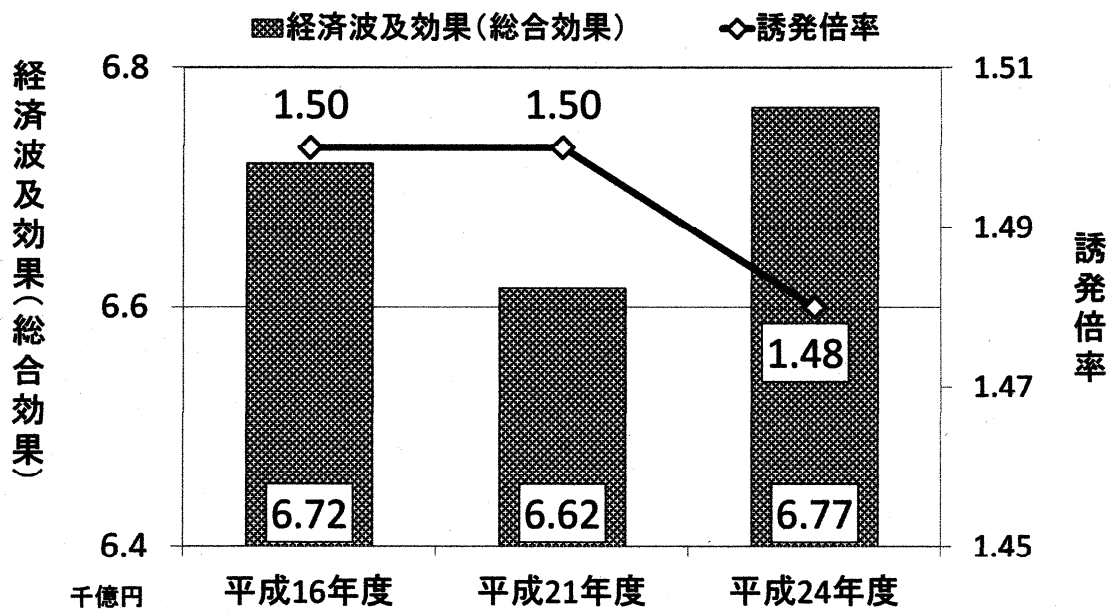


図 I 沖縄観光の経済効果

問2 現在の沖縄観光の基本計画である「沖縄県観光振興基本計画(第5次)」では、平成33年度の達成目標としてインバウンドへの言及があります。

東日本大震災以降最近に至る沖縄県のインバウンドの動向について知るところを述べ、インバウンドの成長が沖縄県にもたらすであろう良い影響と、悪い影響について、具体例を示しつつ述べなさい(700字以上、850字以内)。

平成29年度入学試験問題（後期日程）

小論文

観光産業科学部 観光科学科

出題の意図

出題意図は観光学を志願する学生として沖縄県を例に、地域経済の視点からも重要な観光について常日頃から「観光振興基本計画」や「観光統計実態調査報告書」などの公式統計、計画に高い関心を有しているかの検証があります。また、初歩的な統計資料の示唆を読み取れるか、さらには専門用語を理解し、その上で常日頃から地域にとっての観光の有り方について、どの程度事実に基づく論理的な思考を有しているかをみるものです。これらは「持続可能な観光・産業・社会の実現に貢献する人材」、「専門性と教養を備え、総合的判断力を有する人材」、「地域社会および国際社会の発展に貢献する人材の育成」を育成する学科アドミッションポリシーに従うものです。